

PANTUN

— puisi dan puisi rupa —

黄色瑞華

甲

わが国において、インドネシア語の研究はあるが、その文芸研究においては、彼の国において評価されるほどの業績を見るに到らず、日伊比較文芸研究にいたっては、インドネシア大学文学部日本研究科のスタッフによって今その緒を見る段階である。

以下に報告するインドネシア詩に関する調査は、日本側からの日伊比較文芸研究の端緒となって、後日、日英・日仏比較文芸研究のごとき活況を呼ばんことを期待してのものである。

インドネシアにおいて、その詩史はおおむね以下のごとくに区分するのが普通である。

- 1 Puisi lama
- 2 Puisi baru
- 3 Puisi modern

Puisi lama は1920年までのいわば古代詩、Puisi baru は1921年から1945年までの近代詩、Puisi modern は1945年の独立以降の現代詩である。

私の調査・研究の対象は1945年独立以前の詩と詩形、すなわち Puisi lama 及び Puisi baru であるが、本稿ではそれらの概略を述べ、インドネシアにおける伝統詩形 Pantun に視点を置いて、その puisi (詩) と puisi rupa (詩形) について述べる。なお、この一部分は Seksi Jepang Fakultas Sastra Universitas

Indonesia (インドネシア大学文学部日本研究科) における Kolese Terachir (お別れ講演) “Puisi Jepang, HAIKU puisi dan puisi rupa” (日本の詩歌・俳句—その詩と詩形) 中の Haiku dan pantun の段で述べはものである。

乙

Puisi lama は普通その内容によって次のごとく分類する。

- ア Mantara
- イ Pepatah
- ウ Ungkapan
- エ Perumpamaan
- オ Tamsil
- カ Pemeo

ア Mantara は、祭祀の祈り言葉や呪文などの独白言語である。これは、超能力者の言葉であり、それは神や死者の霊に対して、その目には見えない威力を歌ったものである。作者は呪術者であり、一般の人はそれを口にすることはなかった。Mantara の力を恐れてである。私は古代ジャワ語によるいくつかの資料を得たが、難解であり、本稿で訳語を添えて例示することはむずかしい。イ Pepatah は日本の諺や格言に当たるもの。ウ Ungkapan は「表現」の意。

Anak itu berperut karet

あの人はお腹を持っている (雄大な心の持主, の意)

Tiap hari dia harus membanting tulang untuk menghidupi anak-istrinya

彼は妻子と生活のために骨を折って働く

というようなものがその例である。エ Perumpamaan は「譬え」「譬喩」の意。

Seperti bunga ditimpa panas

暑さにあたった花 (元気がないさま, をいう)

Seperti anjing dengan kucing

犬と猫のようだ (仲の悪いさま)

オ Tamsil は「例」の意で, *permpamaan* の等類,

Bagai kerakap tumbun di batu, hidup segan mati tak mau

生きるのはいやだ, だが死ぬのもいやだ

Lbarat balam, mata lepas badan terkurung

外を見ることはできるが体は籠の中

カ Pemeo は *pepatah* の等類, ポピュラーな言葉の中に精神や生活の教訓が含まれている。

Air dari cucuran atap, jatuhnya ke pelimbahan jua

屋根の水はきっと下に落ちる

Sekali merdeka, tetap merdeka!

ひとたび自由を得れば永遠に自由である

上が *Pepatah*, 下は *Pemeo* の例である。*Pepatah* は多く自然の原理, *Pemeo* は思想的な内容を述べることにその特色を有する。

インドネシアの古代詩には, 以上のごとく今日の詩の範疇を超えたものが多く, わが国の記紀歌謡などとは異っている。それを広く詩としてあつかうのは, <詩はリズムのある文>という定義による。また, そのリズムも語調・語

呂という程度のもので、そこに詩語の源初的な態をうかがうことができる。

丙

インドネシア詩で、今日的意味から詩と称しうるものは、**Pantun, Syair, Gurindam** である。

Pantun は、普通次のように分類される。

- ア **Pantun biasa**
- イ **Pantun berkait**
- ウ **Pantun talibun**
- エ **Pantun kilat**

Pantun biasa は、一般的な、普通のパントゥーン、**Pantun berkait** は連鎖・つながりのある詩、**Pantun talibun** は抒情詩、**Pantun kilat** は即興詩である。こ詩形は **Puisi lama** の時代に発し、**Puisi modern** (現代詩) に受けつがれる伝統の詩形である。

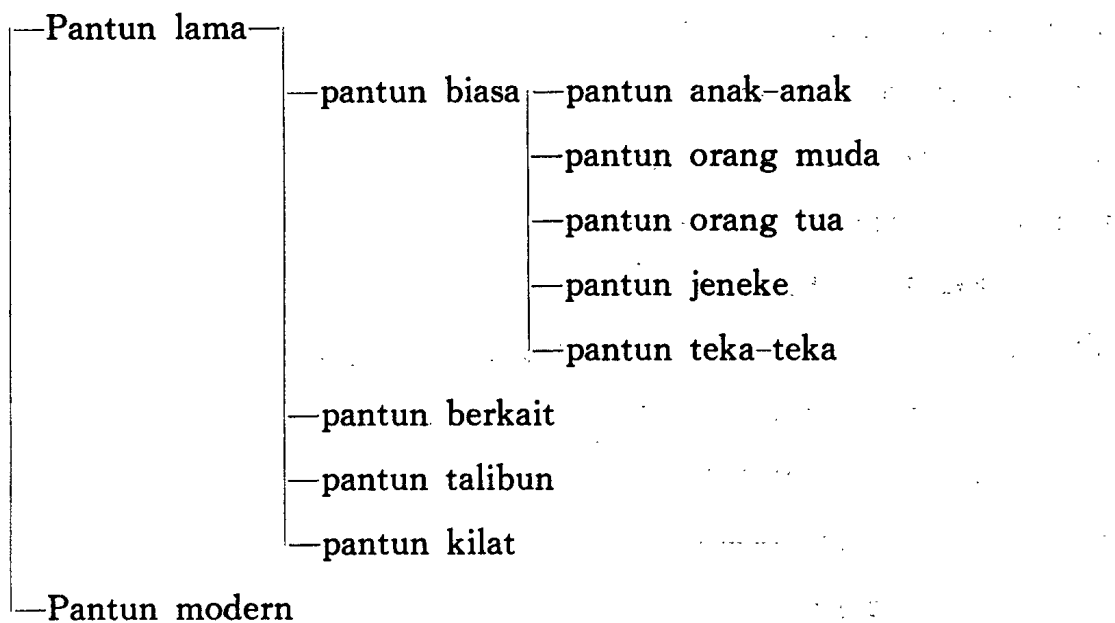
Pantun は、定型詩であり、その形式上の規定は以下のごとくである。

- ① 一編は四行をもって構成される。
 - ② 四行のうち、はじめ二行は **Sampiram** (序)、後の二行は **Isi pantun** (詩の内容) である。序と内容の関係について、学者の意見は二つに分かれている。一つは **Prof, Pijnappel** (オランダ)・**Prof, Husein, Amsr Hamzar** (インドネシア) などのように両者は本来一体であると考える者、**Prof, Ch. A. Van Ophuysen** (オランダ)、**Abdullah bin Abdulkadir Munsyi** (インドネシア) などのように、両者は意味、上無関係と考え者もある。
 - ③ 一行は八音節・十音節、又は、十二音節をもって構成される。
 - ④ **Sajak** (押韻) は、**Sajak awal** (頭韻)、**Sajak achir** (脚韻) を踏むことが原則的であり、**tengah** (中間韻) を踏む場合もある。又、その押韻法も各行の場合、隔行の場合、一・四行と二・三行の場合などがある。
 - ⑤ **Pantun modern** 以前のもものは作者不明、いわゆる民謡である。
- 又、**Pantun biasa** はその内容から以下のように分類するのが普通である。

- ア Pantun anak-anak
- イ Pantun orang muda
- ウ Pantun orang tua
- エ Pantun jeneka
- オ Pantun teka-teka

Pantun anak-anak は子供の Pantun, すなわち童謡である。Pantun orang muda は若者の Pantun, 恋・離別・労働などがその内容である。Pantun orang tua は老人の Pantun, 忠告・教訓, 宗教・習慣といったものがその内容である。Pantun jeneka は俳諧の Pantun・滑稽詩, Pantun teka-teka は謎の Pantun, すなわち謎詩である。

以上を整理すれば次のごとくである。



これをさらに, Pantun anak-anak は Pantun bersuka cita (楽しみの) と Pantun berduka cita (悲しみの) に, Pantun muda は Pantun nasib atau Pantun dagang (運命・生活), Pantun perkenalan (交際), Pantun berkasih kasihan (恋愛), Pantun bercerai (離別), Pantun beriba hati (悲哀) に, Pantun tua は Pantun adat (習慣), Pantun nasihat (忠告), Pantun agama (宗教) などに分類することも可能である。

丁

Lintah

Dari mana datangnya *lintah* —

Dari sawah turun ke **kali** —

Dari mana datangnya *cinta* —

Dari mata turun ke **kati** —

蛭はどこから来る

田んぼから川へ下る

愛はどこから来る

目から心へ降りて来る

Kalau ada sumur di *ladang* —

Bolehcah kita menumpang **mandi** —

Kalau ada umur yang *panjang* —

Bolehcah kita bertemu **lagi** —

もし、畑に井戸があれば

我々はついて行きマンデイ (水浴) することができる

もし、いつまでも生きていることができれば

もう一度会うことができる

Lintah sama *lintah* —

Bersarang di gua-gua —

Cinta sama *cinta* —

Tak peduli orang tua —

蛭と蛭

洞穴で巣を作っている

愛と愛

両親はかまわない

「可愛いあの娘はだれのもの」の歌詞でわが国においても愛唱されている Pantun berkasin-kasian である。四行詩で、押韻の箇所は活字を変えて示したとおりである。はじめ二行は、Sampiran pada pantun (序の部分)、後の二行は lsi pantun (詩の意味の部分) である。そして線によって示したように一行めは三行めに、二行めは四行めに掛っている。

Sampiran と Isi について述べる前にもう少し例をあげておく、

- ① Elok Sungguh permata selan
 Buatan dawa dari angkasa
 Pahit sungguh rindukan bulan
 Bulah tidak menimbang rasa
 セイロンの宝石はきれいだ
 天にある神が作った
 月をなつかしがることは本当に悲しい
 月は人の気持をはかってはくれない
- ② Tingkap papan kayu bersegi
 Riga-riga di pulan angsa
 Indah tampan karena budi
 Tinggi bangsa kerana basa
 板の窓は四角
 アンサー島にある
 行ないがよければ美男で美しい
 言葉で国民は高められる
- ③ Sungguh baik asam belimbing
 Tumbuh dekat limau lungga
 Sungguh elok berbini sumbing

Biar marah tertawa juga

ブリンビンの実はすっぱくてうまい

ブリンビンはルンガの木の近くで育つ

三つ口の妻を持つ男はよい

おこっけていても笑っているから

はじめの詩は Pantun orang muda, 二番めは Pantun orang tua (pantun nasihat), 三番めの詩は Pantun jeneka である。

Pantun orang muda で、押韻は一・三行の中間韻と一・三行、三・四行の脚韻、序は「セイロンの宝石はきれいだ」が三行めの「月をなつかしがること」を引き出しているともみることにはできても、二行めと四行めの関係は明瞭とはいえない。Pantun orang tua で、序の部分と意の部分は意味上無関係と言ってもさしつかえない。これは韻を踏んで音調を整え、リズムを成すことに両者の関係があるのだ。しかるに、第三の例詩では、序の第一行「ブリンビンの実はすっぱくてうまい」は「三つ口の妻を持つ男はよい」を導き、第二行めは四行めの「意外性」を導びく働きをなしている。

Pantun の序と意味、つまりはじめの二行と後の二行の関係について二様の見方があることは前述のとおりだが、かくのごとくその関係はあいまいで、いちがいには断じがたいのである。Pantun の序には音調を整え、それによってリズムを成し、詩の内容を暗示するという無心のものと、さらに内容にもかかっていく有心のものがある。それは『万葉』における序(詞)と等類と考えるとよかろう。ただ、日本の歌では序は多く次にくる語句のためであるのだが、Pantun においては一句(行)隔てた後の句(行)にかかる。

少しくどくはなるが、さらに典型的な例をあげておく。

① Berakit-rakit ke hulu

Berenang-renang ke tepian

Bersakit-sakit dahulu

Bersenang-senang ke mudian

上流から筏
 岸へ泳いで来る
 辛苦を続けて
 後はゆったりと

- ② Anak ikan dipanggang saja
 Hendak dipindag tiada berkunyt
 Anak Orang dipandang saja
 Hendak dipindang tiada berduit
 魚の子は焼くだけ
 調味料はいらない
 人の娘はながめるだけ
 求婚したいが金はない

- ③ Bersabung kilat di ujung langit
 Gemuruh guruh ber-jawabban
 Bertangkai hujan dicurah awan
 Mengabut sabut sebagai dibangkit
 天の端で稲妻はぶつかり合う
 雷は雷鳴を立てて応答する
 雨は雲に降りそそぐ
 木の皮を吹き飛ばすように

- ④ Elok rupanja pohon belimbing
 Tumbuh dekat pohon mangga
 Elok rupanja berbini Sumbing
 Walau marah tertawa juga
 ブリンビンの木は可愛い

マンガの近くに植えます
 三つ口の奥さんは大へん可愛い
 おこっていても笑っています

㉔ Kalau puan puan cerana

Ambil gelas di dalam peti

Kalau tuan bijak laksana

Binatang apa tanduk di kaki

噛みただこの容器が役立つなら

籠からグラスをとります

もしあなたが賢明なら

足に角のある動物は何かご存知

㉔は Pantun jeneke, ㉔は Pantun teka-keka の例である。それぞれの序・内容の関係に言及することは省略する。

戊

以上は、Pantu biasa (普通のパントゥーン) と称されるものについてだが、Pantun にはその内容によって前述のごとく、Pantun berkait (連鎖詩), Pantun talibun (抒情詩), Pantun kilat (即興詩) と称されるものもある。

Pantun berkait に分類される詩の典型的な例をあげる。

Sarang garu di pohon beringin

— Buah kemuning di dalam puan

— Sepucuk surat di layangkan angin

— Putih kuning sambtlah tuan

— Buah kemuning di dalam puan

— Dibawa dari Indragiri

- Putih kuning sambtlah tuan
- Sambutlah dengan si tangan kiri
- Dibawa dari Indragiri
- Kabu-kabu dalam perahu
- Sambutlah dengan si tangan kiri

Seorang makhluk janganlaha tahu

ブリンゲンの木にガルーダの巢がある
 嚙ただこ入れの中にカムネンという果物がある
 二つの手紙は風にとばされる
 白か黄色かを歓迎してほしい

嚙たばこ入れの中にカムネンという果物がある
 インドラギリから持って来た
 白か黄色かを歓迎してほしい
 私は出て来て手をさしのべる

インドラギリから持って来た
 ボートに綿のようなものがある
 私は出て来て手をさしのべる
 一人も知るものがないように歓迎してほしい

Pantun berkait の berkait は「ひっかける」の意、すなわち編物をするように、つぎつぎと後続くものを「ひっかけて」いく形である。しかも、それが韻の上だけではなくて、全く同一句によるところに特色がある。四行からなる構成法、一行の音数、前二行と後二行(序と内容)、押韻法などは Pantun biasa と変わらない。この詩形について、漢詩の回文体、仏教経典の方法などとの比較研究も可能であり、興味あることである。

Pantun talibun は、

Kalau anak pergi ke pekan

Yu beli belanak deli

Ikan panjang beli dahulu

Kalau anak pergi berjalan

Ibu cari sanakpun cari

Induk semang cari dahulu

もし、あなたが市場へ行くなら

海の魚やバナナを買いなさい

長い魚を先に買いなさい

もし、あなたが旅に出るなら

母や親類をたずねなさい

下宿のおばさんを第一にたずねなさい

Pantun kilat の kilat は「雷」の意で、この詩の即興性を意味する。この詩の形は Pantun biasa によく似ているが、これは六行詩である。又、八行から成るものもある。六行詩の場合、はじめの三行は sampiram, 後の三行が isi である。八行から構成される場合は前の四行が sampiram, 後の四行が isi である。

Pantun talibun は方法の上からは Pantun biasa と変わりなく、その題材に違いがあり、その抒情性を表出するのに二行より三行の方がより有効なのだとみてよかろう。そういう点からも Pantun kilat の詩形との対比は興味あるところとなる。

Pantun kilat の例をあげる。

Gendang gendut

Tali kecap

Kenyang perut

太鼓のひもは クチャピの革からできている
 お腹がいっぱいなら 心は楽しい

Dahulu parang

Sekarang besi

Pahulu sajang

Sekrang bentji

一つの山刀 今は鉄
 かつては愛し 今は嫌う

Pinggan tak dingin

Nasi tak dingin

Engkau tak hendak

Kami tak ingin

ひびのない皿は ご飯は冷えない
 あなたはほしくない 私もほしくない

以上の例にみるごとく **Pantun kilat** の詩形は四行で、隔句押韻であるが、これもその内容とするところは二行である。すなわち、前の二行は **Sampiran**、後の二行がである、しかも、**Pantun kilat** では両者は意味上の連絡をもたない。

己

Gurindam という詩形も古い、ヒンズー教とともにインドから入ったとされるこの形詩の典型は次のごときものである。

Kalau terpelipara mata

Kuranglah cita-cita

Kalau terpelihara kuping
 Kabar yang jahat tiada damping
 Kurang pikir kurang siasat
 Tentu dirimu kelak tersesat

目を立派に育てれば

理想が照る

耳が立派に育てば

悪い話は近づかない

考えが足りなければ方法も足りない

きっとあなたは将来迷う

Gurindam の形式上の特色は、

Pikir dahulu sebelum berkata
 Supaya terelak silang sengketa

Jika kena penyakit kikir
 Sanak saudara lari menyingkir

Orang malas jatuh sengsara
 Orang rajin banyak saudara

Barang siapa berbuat jasa
 Mulia namanya segenap masa

言葉は忘れる前に考えよ

後で争そはずにすむ

節検がすぎると
兄弟は逃げししまう

なまけ者は貧乏する
勤勉家は兄弟がたくさん

善行をなせば
いつまでも尊敬される

Guriwdam の形式上の特色は、前掲のごとく隣り合わせる二句が押韻、二句対の一連は、前句が原因、後句はその結果、それををもって詩の内容とする。しかも、この内容は忠告・教訓が主である。

Gurindam と並ぶ古い詩形に Sjair がある。

Berhentilah kisah raja Hindustan
Tersebutlah pula suata perkataan
Abdul Hamid syah paduka sultan
Duduklah Baginda bersuka-sukaan

Abdul Muluk putera Baginda
Besarlah sudah bangsawan muda
Cantik menjelis usulnya syahda
Tiga belas tahun umurnya ada

Parasnya elok amat sempurna
Patah menjelis bijak laksana
Memberi hati bimbang gulana
Kasin kepadanya mulia dan hina

(Abdul Muluk)

ヒンズスタントという王の歴史は終わった
 さらに一つの物語が述べられた
 アブドゥル・ハミッド王子が王位についた
 その王は王位について存分楽しんだ

王にアブドゥルという王子があった
 アブドゥルは大きくなって貴族になった
 その王子は美しく優しい性質だった
 十三歳の時だった

顔は美しく整っていた
 言葉も美しく分別があった
 心はいつも憂鬱そうに気遣っていた
 豊かな者にも貧しい者にも慈愛の情を注いでいた

比較的新しい内容の Sjaïr をもう一編あげておく。

Hatiku rindu bukan kepalang
 Dendam berahi berulang-ulang
 Air mata bercucur selang menyelang
 Mengenangkan adik kekasih abang

Diriku lemah anggotaku layu
 Rasakan cinta bertalu-talu
 Kalau begini datangnya selalu
 Tentulah kakanda berpulang dahulu

中途半端な恋ではない

狂気の恋慕をしばしばくりかえす
 涙がしたるようにとめどなく
 あなたを思い出す，恋しいあなたを

自然に力なく弱々しい手
 途絶えることなく恋しく思う
 どうして，たえずこんなふうになるのだろう
 きっと私は先に亡くなる

今日、Sjair は「古い詩形」という意味と Saja (詩) という意味の両意に解されている。これは古い物語の伝誦様式とみるべきものである。その形式を整理すれば次のようになる。

- ① 一連は四行から構成する。
- ② 一行は八ないし十音節をもって成す。
- ③ 行末は各句脚韻を踏む。
- ④ 一連四行は，序・内容に分けず，すべて内容とする。

庚

以上、Pantun を中心にした、インドネシアの伝統詩についての概要である。

そもそも Pantun の語源は「比喩」の意であり、現代語で Sepantun は「…のような」「同様の」の意を有する。Drs. B. Simor angkirsimandjuntak は、“KESUSASTERAAN・INDONESIA” で、インドネシアの古代詩を Bidal といい、これを「短かい文で、一続きの意を有し、アイロニーを描出するもの。」「これはメロディをとめない、最も古いインドネシアの詩で、ヒンズー教のウェダー（聖歌）に似ている。」(p. 26) と説き、それを内容によって、Peribahasa・Pepatah・Kata Arif・Pemeo に分けている。

Puribahasa・Pepatah は「諺」「格言」の意、Kata Arif は「忠告」、Pemeo は、Pem「人」の意と beo「言葉をまねる鳥の名」(むく鳥の一種)の合成語で、

「諷刺」の意（現代語では Pameo）である。

“KESUSASTERAAAN・INDONESIA” が示す例を引いておく。

Peribahasa

Duduk dibawah-bawah, mandi kehilir-hilir

座るのは下，マンディ（水浴）は向うの方（謙遜する，の意）

Pepatah

Besar pasak dari tiang

柱より釘の方が大きい（支出は多・収入は少，の意）

Kata Arif

Ketika ada jangan dimakan, kalautak ada baru dimakan

もしも，あったら食べないで，なかったら食べる（節約，の意）

Pemeo

Sekali merdeka tetap merdeka

Giat bekerja pasti berjasa

一度の自由は最後まで自由

努力を傾ければ功績を生む

Darsimah Mendah 女史（インドネシア大学日本研究科）の証言によれば，女史の出身地スマトラでは，今日でも家庭における子弟の教育・社会における若者の指導に Bidal がさかんに使われているという。

稿は前後するが，Drs. B. Simor angkirsimandjuntak は，それを ① 農民の Bidal・② 両親と先生・僧たちの Bidal・③ 家庭の中の Bidal・④ 商売の Bidal に分けている（前掲書 p.27）。いくつかの例を引いておく。

① 農民の Bidal,

Pagar makan tanaman.

あの塀は植物を食べる (小作人と地主の関係が逆になる, 意)

Dahulu bajak daripada jawi

牛の前に鋤がある (順序が逆, の意)

Seperti ilmu padi, kian berisi tunduk.

稲は稔って頭を垂れる

② 両親と先生・僧たちの Bidal.

Kalau guru makan berdi, maka murid makan berlari.

先生が食事中に立てば, 生徒たちも走り出す

Lantjar kaji karena diulang, pasar jalan karena diturut.

聖典はくりかえし読めばよくわかる, 買い物道の道もよく通ればわかる

Adat muda menanggung rindu, adat tua menahan ragam.

若者は楽しみを求め, 老人は苦しみを考える

③ 家庭の中の Bidal.

Habis air habishlah kaju, jagung tua tak hendak masak.

水も火もなければトウモロコシは熟さない (無駄をいましめる, 意)

Sambil berdiang nasi masak

火をたいて暖をとり料理をする (一石二鳥, の意)

Kasih ibu sepanjang jalan, kasih anak sepanjang galah.

母の道は終らない, 子供の愛情は竹の長さだけ,

(母の愛は海より深し、と等類)

④ 商売の Bidal,

Semahal-mahal gading, kalau patah tak berharga

象牙は高価でも壊してしまえば値うちはない

Dagangan bersambut jang dia jual.

すぐ売る人は、すぐを買う

(売り言葉に買い言葉、の意)

Bandar terbuka dagangan murah, badan sudahtua

港が繁昌しても、年をとっては何もできない

だらだらと並べたててしまったが、これらの Bidal の中に、後の Pantun を生む素因を見出したかったからである。この中に、韻を踏むものもあるが、その数は少なく、それはわが国の民謡にみるごとく自然発生的なものである。それが、次第に音調を整えるための押韻の様式を生み、修辞の上では序を確立していったのである。それを時間的にさぐることは、資料の上で今はむずかしい。だが、

*Hudjan mas perak dinegeri orang**Hudjan keris lembing negeri kita*

向うの国の雨は金と銀

私の国の雨は剣と槍

Kalau guru makan berdiri

Maka murid makan berlari

(前掲)

というようなものを経て、韻律を次第に整えていったものと考えてよからう。又、

Bandur terbuka dagan murah
badan sudah tua (前掲)

のようなものを見れば、二句一章の内容は明らかに後の句にあり、やがて前の句が後の句の比喩になっていくことも考えられるのである。

Pantun kilat の、

Udjung bendel

Dalam semak

Kerbau mandul

Banjak lamak

太鼓のバチの先

藪の中

子供のできない水牛

脂肪がいっぱい

Kaju lurus

Dalam landang

Kerbau kurus

Banjak tulang

まっすぐな板

田んぼの中

やせた水牛

骨がたくさん

などにみる押韻・序と内容の関係には、その源初的形態をうかがうことができよう。

辛

インドネシアの主要な伝統詩形は Pantun と Sjaïr であり、前述のごとき基本詩形は Puisi modern (現代詩) に生き続け、今なお多くの Pantun modern, Sjaïr modern を生んでいる。この国における上記の二詩形は、日本における和歌・俳句の伝統と等類と考えてよからう。もちろん和歌に狂歌、俳句に川柳などの雑俳があるように Pantun も一様ではなく、それはすでに述べたとおりである。

Puisi modern から Pantun modern を拾っておく、

HIDUP (生命) Samadi

Ketika lahir disambut ebang

Ketika mati dilepas salat

Antara azan dengan sembahyang

Wahai hidup, alangkah singkat!

Datang ke dunia telanjang bulat

Pulang hanya berkain kafan

Jangan ke alam hati tertambat

Alam tak dapat menolong badan!

生まれた瞬間、お祈りの呼集があった

死ぬ瞬間、お祈りで送られる

お祈りの呼びかけとお祈りの間

ああ、生命は何と短かいことか

完全な世界に達する時は裸

ただ、死骸を包む白い布だけを着る

心を人の世界に結んではならない

人の世界は人を助けることはできない

NIAT HATI (希望) Samadi

Kalau niat telah terbuah
Akan berkorban memimpin rakyat
Tentu tuan tidak kan mundur
Lantaran senang atau melarat

Kalau hanya senang dicita
Tidak sungguh akan berbakti
Datang senang, bangsapun lupa
Datang susah, tuanpun lari

Niat hati laksana biji
Apa ditanam, itu yang tumbuh
Coba tanamkan biji kenari
Tidak kan jadi sephohon sauh

もし、意志が確かなら
犠牲になって国民を指導する
あなたはきっと後退しない
よろこびや不幸のために

もし、ただ理想だけだったら
真に献身的に行動するのでなければ
幸せになったら国民を忘れる
もしも、困難があればあなたは逃げる

種子のように小さな希望

それが植えられて芽を出す
 クナリのために植えてみよ
 その種子はきっとサウという他の木には
 ならないはずだ

注：Kenari その種子を粉にしてケーキの上にかける

DLALOG (対話) Sitor Situmorang

Jika mungkin menobros waktu
 Padamu kuserahkan nyawa, seni
 Lihatlah aku terkurung dalam gardu
 Sekeliling hancur, bekas dilanda revolusi.....

もし、時間を突き破ることができたら
 あなたに私の芸の生命をあげます
 私が小屋の中に閉じこもっているのを見てください
 小屋のまわりは、戦争のために破れています

CATATAN ASING (孤独の記録) Sugiarta Sriwibawa

Malam yang mengancik pukul tiga
 Alangkan langut hati yang terasing
 Begitu biru bibir kedinginan juga
 Berkerinyut kata di telinga kering

 Menggigil hati kelam merasa sepi lari
 Denyut was-was segala memekat
 Dan jauh betapa sore telah lelah lewat
 Mengasing bertolak ke balik hari

 Putih yang tiuda warna di hati

Pucat dari kelamuran mata
Begini malam di pukul tiga
Terhanyut miris di dalam mati

三時になろうとする夜
一人ぼっちでめいりそうだ
口唇は青く寒く
しわだらけの言葉が耳に乾く

戦慄する心は薄暗く寂しさを覚え遠くなる
心臓はどきどき，心はかたくなる
そして，夕方は遠く過ぎ去った
それも過ぎて暗くなる

心の中は色もなく純粹
目はぼんやりとして色は薄くなる
三時の夜はこんなさまだ
死の中に一人ただよっている

KEPADA RANG LALU (過去の計画に対して)

Samdi

Mana segala orang nan lalu
Jangan kiranya diberi malu
Saya baru pandai berlagu
Untuk pelipur hati ibuku

すべての過ぎ去った人はどこ
恥かしがらせてはならない
私は歌が上手になったばかり
母をなぐさめるために

最後にあげた Samdai 作の “KEPADA RANG LALU” が最も古典的な詩形である。他の例でわかるように、Pantun modern のほとんどは、本来の特質の一つ序と内容の意識は稀薄により、一連の行数・音数と押韻（ほとんどは脚韻を踏む）によって伝詩の詩形を継承するにすぎない。

参 考 文 献

- KESUSASTERAAN INDONESIA, B. Simorangkir Simandjuntak, 1965, Jakarta
 SARI KESUSASTRAAN INDONESIA, I・II, Dr. J.S. Badudu, 1979, Jakarta
 INTISARI SASTRA INDONESIA, Drs. Abdullah Ambari, 1967, Jakarta
 PUISI dan SAJAK, Mariana, T., 1979, Jakarta
 PUISI dan SAJAK, Sumjati, S., 1979, Jakarta
 GARIS PUTIH, Sugiarta Sriwibawa, 1978, Jakarta
 SENANDUNG HIDUP, Samadi, 1975, Jakarta
 DINDING WAKTU, Sitor Situmorang, 1976, Jakarta
 PETA PERJALANAN, Sitor Situmorang, 1977, Jakarta
 NYANYI SUNYI, Amir Hamzah, 1978, Jakarta
 SURAT CINTA ENDAY RASIDIN, Ajip Rosidi, 1979, Jakarta
 EPISODE HITAM, Embun, K., 1976, Surabaya

<付 記>

- 例詩の和訳は黄色瑞華の試訳である。
- 本稿を成すに当たり、インドネシア大学文学部の Guru, Darsijam Sumarsonohadi, Guru, Darsimah Mandah の指導・助言を受けた。記して感謝の意を表す。
- 本稿は、昭和54年度学外研究員取扱要項第2号第1項B号派遣研究員としての研究報告の一部である。